

平成24年度第1回小牧市環境審議会 議事要旨

日 時	平成24年7月13日（金）午前10時～11時30分
場 所	小牧市役所南庁舎4階本会議用控室
出席者	<p><b>【委員】</b></p> <p>◎石川徳久（中部大学工学部教授）          ○稲垣孝子（小牧市女性の会会長）          石井紘一（公募委員）          大橋昌己（こまき環境ISOネットワーク）          岡田憲久（名古屋造形大学大学院・造形学部教授）          谷口文男（小牧商工会議所環境対策委員会副委員長）          鳥居郁夫（愛知県地球温暖化防止活動推進員）          馬場容子（公募委員）          本庄 肇（小牧市小中学校長会）</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>柴田環境交通部長          廣畑環境交通部次長          伊藤環境対策課長          仲根廃棄物対策課長          野口リサイクルプラザ所長          落合交通防犯課長補佐          丹羽環境対策課長補佐          水野政策推進係長          朝日主事          中外テクノス（株）加藤、荻原</p>
欠席者	1名（末松雅彦委員）
傍聴者	1名
配布資料	<p>資料1 環境基本計画改訂に係るアンケート調査の対象等について          資料2 アンケート調査結果の利用目的等について          資料3 小牧市環境基本計画改訂に関する市民意識調査ご協力をお願い（案）          資料4 小牧市環境基本計画改訂に関する事業所意識調査ご協力をお願い（案）</p>

主な内容

<p><b>1 あいさつ（石川会長）</b></p> <p>・本日は重要な案件ですので、しっかりとした議論をお願いしたい。</p>
---

## 2 議題

### (1) 第2次環境基本計画策定に向けた市民・事業者アンケートの素案について

・事務局より、資料1から4を用いて説明。

・意見等は以下のとおり。

(委員) 市民アンケートの抽出は18歳以上となっているが、中学生も環境に関心はある。例えば中学3年生など、子どもも対象にできないか。

(委員) 環境に対して真剣に考えている子とそうでない子がいて、アンケートで出た数値に対して自信が持てない。子ども達が環境に対してどう思っているかを把握することはできるが、今回の1500人の中に入れるのはどうかと思う。将来を担う子ども達ではあるので、別枠でとるならいいと思う。

(会長) 市民用のアンケートでは、質問内容が難しいのではないか。将来の意識を高めるといふ点では意義はあると思う。

(事務局) 前回は20歳以上で抽出したが、今回は18歳以上として若い意見を取り入れることにしている。中学生へのアンケートについては、ご意見を考慮すると中学生向けのアンケートを別途作成する必要があるが、これから作成するのは困難。今後の課題とし、今回は18歳以上で抽出したいと考えている。

(委員) こまき環境市民会議で子ども達がエコライフチェックシートを実践しているので、アンケート以外での参加でもいいのではないか。

(委員) アンケートは、現計画策定からの10年間の時代の変化を捉えた内容になっているのか。また、小牧市に合った内容になっているのか。最近では、生物多様性などが重要視されているが、アンケートには、生物多様性について書かれていないが良いのか。環境省の指標では生物多様性やリサイクルなどがある。地域での違いはあるがベーシックな部分は当然聞くべきではないか。

(事務局) 生物多様性については、自然、水辺、野鳥、虫などの言葉に置き換えて質問に入れている。また、自由意見で出てきた内容をまとめることにより、今問題となっている現状を取り入れる事ができる。また、国・県の環境基本計画を参考にし、主には小牧市の施策の評価を満足度・重要度・率先行動等で把握できるようにしている。

(委員) 現在の基本計画は77の重点施策で構成されているが、今回の改訂では必要があれば重点施策を増やすということか。

(事務局) 現在の基本計画でも、中間見直しの際に、80あった重点施策を77に減らしている。必ずしも増やすことを考えてはいない。

(委員) 77の重点施策について、目標の達成状況を把握しているのか。PDCAサイクルを取り入れているか。短期・長期目標の区別をつけているか。アンケートよりも、施策の現状把握が大切ではないか。評価方法は、市民が読んで分かりやすくすべき。進捗管理ができないのに項目だけが増えるのはど

うか。アンケート調査の諸経費はいくらかかっているか、その効果はどのようなかを把握して進めてほしい。

(会 長) 計画をどう進めて行くかは、アンケートとは別問題。アンケート調査では、環境がどうなったかを把握することが目的で、計画策定の大前提である。10年前のアンケートでは定性的な部分の把握がメインであったが、今回は定性的、定量的に調査していく内容になっている。

(事務局) 環境年次報告書では、77項目の重点施策の評価を行い、80～90%は達成している。長期にわたって計画している施策以外については、廃除や追加も検討する。今回の策定では、施策評価できる指標を入れた計画にしたいと考えている。生物多様性やエネルギー関係が新たな重点施策となる可能性もあるため、アンケートでは、市民の意識の傾向を掴みたい。

(委 員) 計画策定までのスケジュール表がない。効率よく進めるためにも、工程表は作成すべき。アンケートの精度としては市民人口の1%でよいのか。

(事務局) スケジュールは平成23年度第2回小牧市環境審議会で示したとおり。アンケートの精度としては統計上問題ないと考えている。

(委 員) 個々のアンケート内容の秘密は厳守されているか。

(事務局) 調査票は匿名となっており、厳守されている。

(委 員) 新エネルギーの導入についての調査結果は、どう反映されるのか。

(事務局) 個々の新・省エネルギー導入対策の補助やバックアップ事業を検討する。

(委 員) 調査票の冒頭のあいさつ文では、「環境基本計画」と「改訂」がどのようなものかわからない。何年に策定されて、どういう見直しをするのかなど、分かりやすい文章にしてほしい。

(委 員) 国・県にならながらも小牧の特性をとらえるようなものにしてもらえればよい。アンケート結果をどのように使うかを説明した方がよい。

(事務局) 文章の言い回しなどは分かりやすくしていきたい。具体的には事務局一任ということによいか。

(全委員) 一了承一

(委 員) 設問中の「工場」という言葉を「事業所」にした方がよいのではないか。

(事務局) 「工場」を「事業所」に修正する。

以上

### 3 その他

- ・その他として、平成23年度第2回小牧市環境審議会において、「条例に任期が2年と記載されているのに委員を再任するのはいかがなものか」との趣旨の指摘に対する回答を事務局より以下のとおり行った。
- ・一旦任期の満了した委員を再任することに対して、条例上、何ら妨げるものはない。
- ・ただし、「小牧市審議会等設置及び運営指針」に従い、委員を再任する場合は、原則としてその在任期間が引き続き10年を超えないよう運用していく。